

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490200153		
法人名	グリーンライフ株式会社		
事業所名	はびね別府(グループホーム3階)		
所在地	大分県別府市天満町 2-17		
自己評価作成日	平成29年 9月29日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成29年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度介護度の軽い方が多く入居され、グループホーム本来の共同作業を行う事が出来るようになった。ご自宅で一人では出来なかった事も入居した事で適切なサポート受け、出来る事が多くなり自信をつけて明るく活き活きしてきた方。在宅時に薬物管理が出来ず、過剰な薬の服用で寝たきり状態になっておられた方も、施設と医療機関の連携で内服薬の調整を行い現在は大変お元気になられ、ご家族と遠出が出来るまでに回復された。健康管理には特に力を入れており、予防管理は勿論、異常の早期発見・早期治療を心掛けている。機能低下予防の為に個々に適した脳トレや運動レク、学習療法等を行い、認知症の悪化や身体機能低下の予防を図っている。地域行事(盆踊り等)や施設行事(一泊旅行や季節の外食外食レク)には、新規のご家族も一緒に参加して下さり、良い関係を保っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・組織全体や事業所内の研修など、職員研修の機会が多く、スキルの向上に力を入れている。職員は、利用者本位のケアに努めている。
 ・「ふるさと訪問」や家族と一緒に一泊旅行、「千灯明」見物の夜の外出など、利用者のこれまでの暮らしや思いに寄り添いながら、共に過ごす時間を大切に支援している。とくに家族だけでは難しい一泊旅行も職員のサポートで実現でき、好評を得ている。
 ・定期的に事業所内で地域の交流会を開催し、地域の一員として自治会と協力関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念・施設理念を社員の心得として『日常の五心』を毎朝唱和、内部研修や全体会議の場で『至誠惻怛』や『私たちの誓い』を唱和し、クレドを常に携帯し、理念の浸透に努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を職員で話し合い作成している。入職時に理念を説明し、日々のケアや会議、研修などの中で振り返りながら、理念の共有と実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢者の集いの会を施設1階で毎月実施し、利用者様も参加して介護予防や住民間の連携確立に参画している。また、地域行事に施設を開放したり、お祭りへの協賛など地域と一緒に活動している。	自治会に参加し、地域行事にも参加している。月1回、事業所内で地域の交流会を開催しており、入居者と職員も参加し、地域の一員として交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会と協働して高齢者の集いの会を施設1階で毎月開催し、介護予防や住民間の連携確立の為に協力している。また、支援学校や看護学校の実習生を受け入れ、地域のお役に立てるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況や取り組みを報告し、ご意見を頂いている。また、会議の場で市役所や包括への相談も行っている。年度始めの施設内見学や11月の立会い避難訓練等で施設内の様子を実際に見て頂いている。	家族や地域の代表、市担当者の参加がある。事業所の取り組みについての報告をし、参加者より意見をもらっている。災害時の対応など、事業所や地域の課題についても話し合う場となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護事業を運営する上での相談や質問を市役所に電話や直接出向いて相談をしている。別府市役所よりグループホーム連絡協議会が委託され、「オレンジカフェ別府」を運営しており運営に携わっている。	市担当者は運営推進会議に参加している。事業所の取り組みを伝えながら、相談やアドバイスをもらっている。オレンジカフェ運営など、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0委員会を設置しており、定期的に研修会を開き拘束しない介護を工夫し徹底している。出入口に自動ロックが設置されているが危険防止のためとの評価を利用者・家族・地域の方に頂いている。	年1回、研修を行い、身体拘束しないケアの実践に努めている。安全のため施錠しているが、利用者が外出したい時には一緒に出掛けるなど、閉塞感のない支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置しており、研修会を行い、虐待防止について学んでいる。虐待が発生するような因子を作らないように環境を整え、スタッフ間の風通しの良い関係を築いている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市役所担当者や家裁などに相談し、実際に成年後見人制度を活用した事例もある。必要時は制度について説明したり、相談窓口を紹介したりもしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は読み合わせを行いながら、都度質問等を受けながら、十分理解して契約していただくように努めている。契約後も質問があった場合は誠意を持って説明を行い、契約後に問題になった事は一度も無い。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話・メールで密に意見交換を行っており、年2回の家族運営会議や年1回の家族アンケート調査でも率直な意見を頂いており、速やかに対応している。アンケート結果についても情報開示している。	アンケート調査や家族会の実施など、家族意見を聞く場を設けている。電話やメール、面会時など、いつでも気軽に意見をもらえるよう、話しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は申し送り参加やフロアのラウンドを行い、スタッフと意見交換を行いタイムリーに対応している。各種会議や普段でも意見交換を行い、職員一人ひとりが意見を表出できる環境作りを行っている。	管理者は会議や日々のケアの中で、職員が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。勤務体制や行事計画など職員の意見を積極的に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事評価を行い、スタッフが向上心を持って働けるようにしている。給与水準も上り、就業条件はかなり良くなっている。法人自体が公休を増やす方向で検討しており、常に働きやすい環境作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人自体が社員育成に力を注いでおり、人間育成～専門職教育まで様々な研修を定期的に開催している。施設内研修も毎月実施し、外部研修の案内も掲示し、多くの社員が参加出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市グループホーム連絡協議会を運営し、研修会やオレンジカフェ等で他事業所と交流を持ち情報交換も行っている。また、県主催の認知症介護研修では多くの事業所の職員と交流出来ている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様と面談し、要望を伺うと共に心身の状態や認知症状を把握し、どの様な介護を必要としているか理解した上で、声掛けや支援を行い、本人様の思いに沿う様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問調査時に十分意見交換を行い、要望を把握する。面会時や電話・メールでの情報交換。月1回の写真入り報告書郵送など、日々の生活が出来るだけ見える様にして、安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様を中心にご家族・ケアマネ・MSW・主治医等と情報交換を行いながら、要望に沿える様に支援している。また必要な場合は他施設を紹介したり、利用者様にとって一番最適な結果となるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援に沿ったケアを心掛けており、家事などで出来る方には手伝っていただき「皆の為に作業している」の気持ちを大切にしてい、「ありがとう」「助かるわ」の感謝の言葉を必ず言う様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	地域行事や施設行事（外出レクリエーション・一泊旅行など）にご家族もお声掛けして希望者は一緒に参加し、共に利用者様を支える環境がある。家族様も喜んで参加して下さい、楽しみにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの面会制限が無い限り面会は自由に出来き、古い友人や生徒さんも訪ねてくる。年賀状作りのお手伝いをしたり、電話で話していただいたり、地域の行事に参加して関係が継続できる様にしている。	本人が大切にしてきた馴染みの関係を把握しながら、家族や住み慣れた地域との継続的な支援をしている。手紙や電話の支援や、すべての入居者のふるさと訪問を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	部屋に閉じこもらない様に声掛けして一緒にお茶を飲んだり、会話が出来る環境作りを心掛けている。性格が合わない方はテーブル配置を工夫したりしてトラブルが起きない様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も移った病院や施設を訪問して関係を続けており、ご逝去された場合も必ず連絡を下さる。退居後も家族が相談に来られる事があり、話しを伺ったり、アドバイス等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一泊旅行や外出・外食レクなどは利用者様と一緒に話し合い、皆様の希望を考慮しながら行き先等を決めている。利用者様からの要望をご家族に伝え、ご家族と出掛ける機会となる事もある。	日々の暮らしの中で、本人の言葉や表情を大切にしたいケアをしている。これまでの生活歴を家族から聞きながら、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査やご本人やご家族・ケアマネ等からの情報、または面会者との会話の中から情報を得て、記録に残しスタッフ間で共有し、レクや生活に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル・食事量・排泄状況など記録に残し、健康面や精神面も些細な変化を見逃さないように注意深く観察して、有する能力については家事やレク実施中の様子観察を行い変化に気付く様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族の要望を伺い、担当者会議で最善の介護を提供できるようケアプランを作成している。定期的には勿論、状態に変化があった場合は都度モニタリングを行い、ケアプランに反映させている。	3か月ごとにモニタリングを行っている。担当職員がアセスメントを作成し、本人や家族の思いを聞きながら全職員で話し合い、現状に即した介護計画の作成や見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に残すと共に、口頭および申し送り簿にて確実に申し送り、素早く対応出来るようにしている。また、その内容はサービス担当者会議でも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院すると認知症の進行や身体機能低下するため可能な限り提携医に協力して頂き、施設内で治療して頂いている。入院しても病院に通い、早期退院出来る様に医療者や家族と情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練に地域の方が参加して下さったり、定期的な踊りのボランティアや演芸などの施設訪問を受け、利用者様に楽しんで頂いている。また、餅つきの道具を近隣の方にお借りしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症専門の内科医と歯科・皮膚科・泌尿器科の定期往診も受けている。希望の専門医への受診も自由で利用者様やご家族の希望を優先している。他科受診の付き添い依頼があれば受診介助も行っている。	本人や家族の希望に沿ったかかりつけ医となっている。家族と医療機関とは密に連絡を取り合いながら、協力関係を築いている。隣接地に協力医療機関があり、往診など柔軟に対応してくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の些細な変化にも気付けるよう訓練されており、異常時は看護職に報告し早急に対応できるシステムになっている。また、提携病院の看護師も点滴や注射など、施設での治療に協力してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者様の面会や食事介助に頻回に伺い病態やADLの把握をした上でご家族と一緒に医療者と退院に向けての話し合いを行っている。医療機関も施設側の受入態勢が整っている事で安心だと言っていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについて家族と話し合い、可能な限り支援する指針を示して対応している。看取りは主治医と協力しながら、本人・家族の意向を受けプラン作成を行い、ご家族を支えながら一緒にケアを行っている。随時、看取り研修も実施している。	重度化した場合の指針を作成している。本人や家族の状況に応じて、できるだけ早い段階から説明を行っている。職員は、重度化や看取りの研修を重ねながら、本人や家族の希望に沿った支援に取り組んでおり、看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応をマニュアル化しており、定期的に研修を行い慌てず対応出来るようにしている。また異常に早期に気づき「何か変だ」と感じたら夜中でも直ぐに看護師に報告するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練や緊急連絡訓練等を行い、災害時に職員が冷静に対処出来るように訓練している。年1回は消防署立会や地域の方参加の訓練も行い協力体制を築いている。	月1回、昼夜の火災や自然災害を想定した訓練を行っている。地域や消防署との連携を図りながら、避難経路を廊下に掲示し、定期的にコンセンストチェックを行う等、防火対策に取り組んでいる。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、尊厳ある暮らしが出来るよう介護する事を心掛けており、言葉使いや態度も高齢者を敬い、馴れ合い過ぎない様に留意して接し、常に適切な介護を行うよう努めている。	その人らしい尊厳ある暮らしを支援できるよう職員研修を重ねている。気になる言葉かけや対応があれば、その都度注意しながら、誇りやプライバシーを損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分の意見や希望を職員に訴えられる環境作りを心がけており、要望が叶えられる様に職員は努力している。全ての介護の際に必ず声掛けを行い同意を得てから行う様にしており、無理強いはいしない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「常に利用者様優先」の精神でケアさせて頂いており、健康阻害や危険が及ばない限り、利用者様の意見を尊重して支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師による散髪や顔剃りを受けたり、定期的に髪染めを行ったり、行事出席の時は化粧をしたりオシャレな装いをして頂き普段とは違う時間を楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査や食事時の会話で要望をメニューに取り入れてもらったりしている。出来るだけ自力摂取を目指し、食器や環境の工夫を行っている。食後の後片付けを利用者様と一緒にやっている。	厨房で作られた手作りの食事を提供している。職員による検食や家族が試食する機会を設けている。おやつ作りや、月1回の外出に出かけるなど食事が楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1時間毎に様々な飲み物を提供し水分管理を行っており、食事制限がある方も医師や栄養士と相談しながら美味しく召し上がって頂けるよう工夫している。食事量・飲水量共に記録して健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔リハビリは毎食前必ず行い、口腔機能が衰えない様に努めている。毎食後、必ず歯磨きを行って頂き、就寝時は義歯を洗浄殺菌剤に浸し清潔に管理している。訪問歯科医の健診や治療も受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本と考えて排尿間隔を把握し、間隔が開いている時はさり気なく声掛けを行いトイレ誘導している。介護用品も本人様に適した種類を選び、夜間も個々の排泄間隔でトイレ誘導を行っている。	トイレでの排泄つを基本としている。おむつの使用を減らし、リハビリパンツで過ごす人も多い。一人ひとりの力やパターンを把握し、タイミングをはかって声掛けや誘導を行い、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	新鮮な野菜を使用し食事から繊維の多い食品を摂取できる様に工夫している。また飲水量の管理も行い、自然排便が見られる様に工夫しているが、頑固な便秘の方には適量の解下剤を適量使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっているが、体調に合わせて日程変更可能。入浴時間は利用者様の希望を叶える等尊重しており、好みの入浴剤を入れて楽しんで頂くなど工夫している。	一人ひとりの希望に合わせて、週3回の入浴となっている。浴槽据置型のリフトを活用し、全員が湯船につかれるよう支援している。入浴を嫌がる人には声掛けのタイミングを計りながら、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠を妨げない程度の休憩時間を日中設けながら、ご自分の望む様に居室とリビングを行き来して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の内容は個人ファイルで管理しており、効果や副作用については観察を行い、記録に残している。症状については主治医に報告し、指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	学習療法を行ったり、脳トレやゲームを行って楽しく張り合いのある生活が送れるように支援している。家事作業は出来る作業を分担して行っただき、助け合いながら生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時散歩やドライブに出かけているが、特に毎日散歩を希望される方はほぼ毎日出かけている。家族と共に遠方の親戚を訪問したり、入院中の友人を見舞ったり、自由に出掛けておられる。毎月、オレンジカフェに参加している利用者様も居られる。	本人の希望に合わせて、近くの神社などへ散歩に出かけている。外出を嫌がる人にも屋上で外気浴ができるよう支援している。季節の花見や外食等でドライブに出かけたり、家族との一泊旅行を共に支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持する事を希望される方は居られないが、希望があればご家族と話し合い所持して頂き支援する事はできる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族との手紙の遣り取りや希望があれば電話をかける支援も行っている。年2回の家族会では利用者様からご家族への感謝のカードをお渡しし、大変喜んで頂いている。写真入りの年賀状も大好評である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室前に毎月の利用者様のご様子を写真で飾り、一年の経過が分かる様にしている。居室の入口には暖簾を下げ、風通し良くして快適に過ごせる工夫もしている。席配置も工夫して、トラブルを起こさず穏やかに過ごせるよう配慮している。	利用者がくつろげるように、テーブル席の配置を工夫している。明るく静かで居心地よく過ごせる。 除菌水の使用や掲示物に画びょうを使わない等、利用者の安全や衛生面に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士で談話したり、ゲームをしたり、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室共、使い慣れた家具や馴染みの物を置き、落ち着いて生活できる空間にしており、家具配置等、ご家族様と相談しながら快適に過ごせるよう環境作りを行っている。	入居時に家族と話し合い、使い慣れた家具やソファ、仏壇などを持ち込み、これまでの生活感のある居室となっている。温湿度計を設置し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮した環境整備を心掛けており、見守り援助の必要な方にはセンサーを設置し、直ぐに駆けつけ援助が出来るようにしている。過剰な介助をせず、持っている機能が低下しないように心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490200153		
法人名	グリーンライフ株式会社		
事業所名	はびね別府(グループホーム2階)		
所在地	大分県別府市天満町 2-17		
自己評価作成日	平成29年 9月29日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成29年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

重度要介護者が多く利用者同士の会話や関わりは少ないが、その様な状況の中でも職員がパイプ役となって、適宜快の刺激を受けられるよう支援している。寝たきりにならないようリビングで過ごしていたき、生活の中で周囲から刺激が入るようにしている。ご自身の想いを言語表出できない方が多い為、表情や様子を観察して思いを推察しながらケアしている。重度化に伴い、出来る事は少なくなっているが過剰な介護はしないよう心掛けている。高齢・重度化による体力低下ある為、短時間の安静タイムを設け体力の消耗を防いでいる。また抵抗も低下しており、易感染状態の方が多いため、感染防止や健康管理には特に力を入れている。異常の早期発見・早期治療を行い重症化しないように努めている。ご家族との情報交換も密に行い、安心して施設を利用して頂けるよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム3階に記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念・施設理念を社員の心得として『日常の五心』を毎朝唱和、内部研修や全体会議の場で『至誠惻怛』や『私たちの誓い』を唱和し、クレドを常に携帯し、理念の浸透に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢者の集いの会を施設1階で毎月実施し、利用者様も参加して介護予防や住民間の連携確立に参画している。また、地域行事に施設を開放したり、お祭りへの協賛など地域と一緒に活動している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会と協働して高齢者の集いの会を施設1階で毎月開催し、介護予防や住民間の連携確立の為に協力している。また、支援学校や看護学校の実習生を受け入れ、地域のお役に立てるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況や取り組みを報告し、ご意見を頂いている。また、会議の場で市役所や包括への相談も行っている。年度始めの施設内見学や11月の立会い避難訓練等で施設内の様子を実際に見て頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護事業を運営する上での相談や質問を市役所に電話や直接出向いて相談をしている。別府市役所よりグループホーム連絡協議会が委託され、「オレンジカフェ別府」を運営しており運営に携わっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0委員会を設置しており、定期的に研修会を開き拘束しない介護を工夫し徹底している。出入口に自動ロックが設置されているが危険防止のためとの評価を利用者・家族・地域の方に頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置しており、研修会を行い、虐待防止について学んでいる。虐待が発生するような因子を作らないように環境を整え、スタッフ間の風通しの良い関係を築いている。		

事業者名: はぴね別府(グループホーム2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市役所担当者や家裁などに相談し、実際に成年後見人制度を活用した事例もある。必要時は制度について説明したり、相談窓口を紹介したりもしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は読み合わせを行いながら、都度質問等を受けながら、十分理解して契約していただくように努めている。契約後も質問があった場合は誠意を持って説明を行い、契約後に問題になった事は一度も無い。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話・メールで密に意見交換を行っており、年2回の家族運営会議や年1回の家族アンケート調査でも率直な意見を頂いており、速やかに対応している。アンケート結果についても情報開示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は申し送り参加やフロアのラウンドを行い、スタッフと意見交換を行いタイムリーに対応している。各種会議や普段でも意見交換を行い、職員一人ひとりが意見を表出できる環境作りを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事評価を行い、スタッフが向上心を持って働けるようにしている。給与水準も上り、就業条件はかなり良くなっている。法人自体が公休を増やす方向で検討しており、常に働きやすい環境作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人自体が社員育成に力を注いでおり、人間育成～専門職教育まで様々な研修を定期的に開催している。施設内研修も毎月実施し、外部研修の案内も掲示し、多くの社員が参加出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市グループホーム連絡協議会を運営し、研修会やオレンジカフェ等で他事業所と交流を持ち情報交換も行っている。また、県主催の認知症介護研修では多くの事業所の職員と交流出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様と面談し、要望を伺うと共に心身の状態や認知症状を把握し、どの様な介護を必要としているか理解した上で、声掛けや支援を行い、本人様の思いに沿う様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問調査時に十分意見交換を行い、要望を把握する。面会時や電話・メールでの情報交換。月1回の写真入り報告書郵送など、日々の生活が出来るだけ見える様にして、安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様を中心にご家族・ケアマネ・MSW・主治医等と情報交換を行いながら、要望に沿える様に支援している。また必要な場合は他施設を紹介したり、利用者様にとって一番最適な結果となるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援に沿ったケアを心掛けており、家事などで出来る方には手伝っていただき「皆の為に作業している」の気持ちを大切に、「ありがとう」「助かるわ」の感謝の言葉を必ず言う様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	地域行事や施設行事（外出レクレーション・一泊旅行など）にご家族もお声掛けして希望者は一緒に参加し、共に利用者様を支える環境がある。家族様も喜んで参加して下さい、楽しみにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの面会制限が無い限り面会は自由に出来き、古い友人や生徒さんも訪ねてくる。年賀状作りのお手伝いをしたり、電話で話していただいたり、地域の行事に参加して関係が継続できる様にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	重度の方でも寝たきりにせず、リビングで他者の声を聞いたり動きが目に入る様にして生活観を体感して頂いている。部屋に閉じこもらない様に声掛けし、一緒にお茶を飲んだり会話できる環境作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も移った病院や施設を訪問して関係を続けており、ご逝去された場合も必ず連絡を下さる。退居後も家族が相談に来られる事があり、話しを伺ったり、アドバイス等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	飲酒を希望されるが健康面で制限されている方にはご家族と話し合い、ノンアルコールビールを提供する等の工夫をしている。利用者様やご家族様の要望には最大限応えられる様に工夫している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査やご本人やご家族・ケアマネ等からの情報、または面会者との会話の中から情報を得て、記録に残しスタッフ間で共有し、レクや生活に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル・食事量・排泄状況など記録に残し、健康面や精神面も些細な変化を見逃さないように注意深く観察して、有する能力については家事やレク実施中の様子観察を行い変化に気付く様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族の要望を伺い、担当者会議で最善の介護を提供できるようケアプランを作成している。定期的には勿論、状態に変化があった場合は都度モニタリングを行い、ケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に残すと共に、口頭および申し送り簿にて確実に申し送り、素早く対応出来るようにしている。また、その内容はサービス担当者会議でも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院すると認知症の進行や身体機能低下するため可能な限り提携医に協力して頂き、施設内で治療して頂いている。入院しても病院に通い、早期退院出来る様に医療者や家族と情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練に地域の方が参加して下さったり、定期的な踊りのボランティアや演芸などの施設訪問を受け、利用者様に楽しんで頂いている。また、餅つきの道具を近隣の方にお借りしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症専門の内科医と歯科・皮膚科・泌尿器科の定期往診も受けている。希望の専門医への受診も自由で利用者様やご家族の希望を優先している。他科受診の付き添い依頼があれば受診介助も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の些細な変化にも気付けるよう訓練されており、異常時は看護職に報告し早急に対応できるシステムになっている。また、提携病院の看護師も点滴や注射など、施設での治療に協力してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者様の面会や食事介助に頻回に伺い病態やADLの把握をした上でご家族と一緒に医療者と退院に向けての話し合いを行っている。医療機関も施設側の受入態勢が整っている事で安心だと言っていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについて家族と話し合い、可能な限り支援する指針を示して対応している。看取りは主治医と協力しながら、本人・家族の意向を受けプラン作成を行い、ご家族を支えながら一緒にケアを行っている。随時、看取り研修も実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応をマニュアル化しており、定期的に研修を行い慌てず対応出来るようにしている。また異常に早期に気づき「何か変だ」と感じたら夜中でも直ぐに看護師に報告するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練や緊急連絡訓練等を行い、災害時に職員が冷静に対処出来るように訓練している。年1回は消防署立会や地域の方参加の訓練も行い協力体制を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、尊厳ある暮らしが出来るよう介護する事を心掛けており、言葉使いや態度も高齢者を敬い、馴れ合い過ぎない様に留意して接し、常に適切な介護を行うよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度の方も介護提供時は必ず声掛けを行い、不安にならない様に留意している。表情や態度の観察を怠らず、本人様の意思を推察して、拒否される場合は時間や環境を変える工夫をして無理強いしない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護者の業務の都合では行わないルールのため、常に利用者様中心の介護を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師による散髪や顔剃りを受けたり、定期的に髪染めを行ったり、行事出席の時はお化粧をしたりオシャレな装いをして頂き普段とは違う時間を楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	口腔機能に適した食形態の工夫を行い、声掛けしながら和やかな雰囲気です食事をして頂けるようにしている。食後は食器拭きやお盆拭き等できる事を手伝っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1時間毎に様々な飲み物を提供し水分管理を行い、食事がしっかり摂取できるよう食形態にも留意している。体重管理を行い、医師の指示の下、カロリーコントロールも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず歯磨きを行って、口腔内を清潔に保っている。就寝時は義歯を預かり洗浄殺菌剤に浸して清潔に管理している。訪問歯科医の定期健診や治療を受け、口腔管理には力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度の方もトイレでの排泄を基本と考え、排尿誘導を行っている。介護用品も本人様に適した種類を選び、夜間も個々の排泄間隔でトイレ誘導を行う努力をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	新鮮な野菜を使用し食事から繊維の多い食品を摂取できる様に工夫している。また飲水量の管理も行い、自然排便が見られる様に工夫しているが、頑固な便秘の方には適量の解下剤を適量使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっているが、体調に合わせて日程変更も可能。重度化しているため2人介助で入浴して頂く方が増えて来たが湯船に浸かって頂ける様に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	重度化により眠り込みが見られる方は午前午後各1時間程度の安静時間を設けている。室温や湿度の管理を行い、冬季は加湿器を使用したり、環境管理に留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の内容は個人ファイルで管理しており、効果や副作用についての観察を行い、記録に残している。症状については主治医に報告し、指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化に伴い、家事作業が出来る方が少なくなりましたが、出来る方には出来る作業を行ってもらっている。職員との会話や学習療法などで楽しんで頂き、利用者の演奏に合わせて歌ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は随時散歩やドライブに出かけている。花見や海遊び、外食レクなどは恒例行事となっている。地域行事や施設行事には家族もお誘いして参加して頂き、思い出作りのお手伝いをさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金所持を希望される方が居られないが、希望があればご家族の許可を得て買物に出掛け、立替え金でお金を使用している事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかける支援を行っている。 重度の方は年賀状に写真を入れ、ご家族やご親戚の方へお元気な様子をお送りして、喜んでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寛いで生活できるようにソファを配置し、季節感のある飾り付けを行い、明るい雰囲気になっている。心地良い音楽をかけ、穏やかに過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	重度化の為、利用者様の意志で他者に係わる事は少なくなって来ているが、職員が係わる事で一緒に歌ったり、他者の会話を聞いて頂いたりする環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室共、使い慣れた家具や馴染みの物を置き、落ち着いて生活できる空間にしており、希望者は居室でテレビをみたり、ラジオを聴いて過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を配慮した環境作りを心掛けており、転倒の危険がある方や不穏行動がある方は居室にセンサーを設置したり、頻回の観察で事故が起こらない様に留意している。		